



第151号  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 市村 聡  
 編集人 会報編集委員長 滝澤 祥 匡  
 印刷所 須坂新聞社

# 研修について

同好会 副会長 佐藤 昭二

日頃から研修という事に余り縁のない私に「研修について」の原稿依頼が届き驚きました。

◎大辞林では、  
 研修＝学問・技能などをみがき修得すること。

◎広辞苑では、  
 研修＝学芸などを、みがきおさめること。

◎例解新国語辞典では  
 研修＝ある方面の知識を身につけるために、とくに期間をもうけて勉強すること。となつています。

平成4年度の夏休み中にも数多くの同好会が夏期講習会を実施して居ります。同好会副会長という関係から各同好会の通知をいただきますが、是非参加してみたい

ものだ……と心に思いつつ、あの仕事、この仕事と仕事にかこつけて出席をしないのがここ数年の私の姿です。

「夢の中に子どもが出てくるようであればだめだ!!」

「先輩というものは多くの経験の中でつちかた実践的

「先輩は求めなければ教えてくれないものだ、自分から求めよ」

「本も読みっぱなし、話の聞きっぱなしでは、読まぬに等しく、聞きっぱなしは聞かぬに等しい」

「教育は今現在を考えながら少なくとも3、4年先までの教育を忘れてはならない」

「夢の中に子どもが出てくるようであればだめだ!!」

「先輩というものは多くの経験の中でつちかた実践的

「先輩は求めなければ教えてくれないものだ、自分から求めよ」

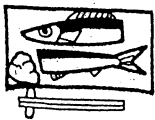
「本も読みっぱなし、話の聞きっぱなしでは、読まぬに等しく、聞きっぱなしは聞かぬに等しい」

「夢の中に子どもが出てくるようであればだめだ!!」

「先輩というものは多くの経験の中でつちかた実践的

「先輩は求めなければ教えてくれないものだ、自分から求めよ」

「本も読みっぱなし、話の聞きっぱなしでは、読まぬに等しく、聞きっぱなしは聞かぬに等しい」



がまえを覚えていただいたことを今でも覚えています。自らが求めていく場合には「やらされる研修」ではなく「求める研修」に変容し、研修に対する姿勢や心構えも当然変わってくると思います。子ども達の学習も、やらされる学習ではなく、自ら進んでやろうとする学習の場合の方が学習意欲の持ち方が全然異なるということは先生方は誰もが認めるところであります。

先に述べた先輩の教えは、私たちのこれからの研修の方向を明確にしているのではないかと思います。

特に「読みっぱなし、聞きっぱなし」の多い私には耳の痛くなる言葉です。

「やらされる研修」でも「よしやってやろうではないか」という本人の気持ちの持ち方次第で「求める研修」に変わるのではないのでしょうか。

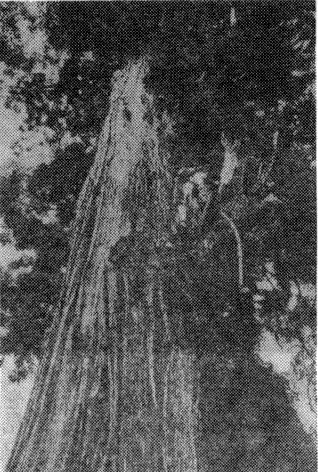
夏休み中に多くのことを学ばれた先生、そして、これからも種々の研修に参加されようとしている先生方、「求める研修」の姿勢で多くのことを身につけ、現場の子ども達の向上のために役立ててほしいものです。

(小山小)

## 教育会だより

- 7・2 教育七団体連絡会結成準備会 於教育会館
- ・4 第1回研究委員会
- ・6 第4回常任委員会
- ・13 教研集成分科会長・司会者会 於教育会館
- ・16 第5回代議員会
- ・20 上高井教育会報第150号発行
- ・29 教育七団体結成会 於教育会館
- ・8 26 教育七団体代表者会 於教育会館
- ・9 1 第5回常任委員会
- ・2 教育七団体代表者市内四高等学校へ陳情
- ・3 教研集会中間連絡会 於教育会館
- ・4 教育七団体代表者、県知事・県教委へ陳情
- ・10 第6回代議員会・信教各種研究調査編集委員会中間報告会(1)
- ・26 上高井教育会報第151号発行

### 須高の自然⑩ 万竜寺のクマスギ 堀米 富平



仁礼龜倉万竜寺山門脇にそびえている。幹囲四・九五m 樹高約三〇m、枝張り東西九・三m南北一五・四m、かつて山門両脇にあつたものであるが、左側のは昭和五十七年の台風で腰部から折れた。折れ口年輪は複雑であったが、筆者も立ち合つて三百余年の樹齢が確定した。

寺伝によれば米子村竹前某が伊勢参宮と熊野三詣の折三本の杉苗を財布に入れて持ち帰り、その内二本を山門脇に植えたという。一説に他一本は下米子神社に植えられた

(御神木として現存)。  
 須坂市の「市の木」にクマスギが指定されている。アカスギに比し、葉を握って痛さが少なく樹形もこんもりとした円錐形になる。「台木挿穂法」という改良育苗法(さし木で苗を作る)によるクマスギ苗作りが当地で可能となり、苗木の大量生産、短期育成という点で日本造林技術の先駆的役割を果たした。米子硯原に稟の育苗センターが設けられていて、塩野に両種を植えた林があり、クマスギは断然生育が早い。

(高山小)



# 夏期研修会に参加して

(今年度の夏休みも多数の先生方が研修会・講習会に参加されました。その中から得られた貴重な体験や感想をお寄せいただきました。)

## 地歴夏期巡検

### 群馬県 六合村を訪ねて

山田 徹

ことしの夏期巡検のねらいは、信州の地と北西上州との結びつきを訪ねる旅でした。講師先生が言われるように人の交流を知ろうと思えば、現在の行政区画にしばられていては本当の交流を知ることができない。そこで県境をこえて群馬県まで足を伸ばしてきました。そこには須坂の町にとどまっていたはわからなかったことも発見できました。

私たちが訪ねた六合(く)に)村は、群馬県の北西部に位置し、上信越国境の赤石山(二〇八・六)天高山(二〇七九・四)白砂山(二一九九・七)など二千級級の山々をもって新潟県南魚沼郡湯沢町、長野県下水内郡栄村下高井郡高山村と接しています。熊倉には平安時代の集落遺跡が出るなどの古代のむかしから人の生活が営まれてきた地であります。

中世には西の草津温泉と東の伊香保温泉を結ぶ暮坂峠越道が通り、近世には盛んに利用されてきました。西端の波峠も草津・入山方面と信州を結ぶ最短の交通道として賑わっていたようです。

上の事情を歴史をたどってふりかえって見ると上古の時代には資料が不足して不明ですが、平安時代末期から鎌倉

ほど人の通りが賑わっていた。江戸の末期には大笹街道を通して江戸・横浜と通じ、絹糸・菜種油・たばこ等須坂の町の発展の元にもなっていました。

終戦後も草津の湯の旅館の青年が高崎や前橋の高校を選ばないで、須坂の高校で学んで卒業していったことなどは、心情面でも信州と北西上州との深い結び付きが伺えます。鉄道が敷かれ、自動車道路が整備されてくると昔のおもかげはどこへやら消えてしまいがちですが、行政区画をはずして見ると、今まで気付かなかったことが、わかって興味深く思いました。(井上小)

「教育はまったく非合理の世界だ。骨折りの損のくたびれもうけの仕事だ。矛盾した非合理の世界を認め合い、理解し合い、

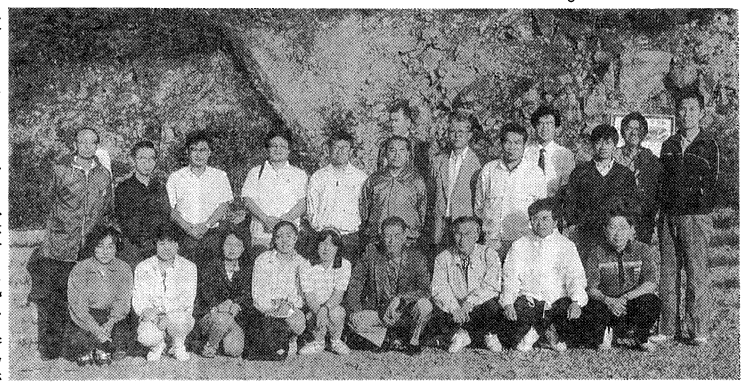
## 夏期講習会に参加して

長谷部 貞夫

例年、夏休みに行われる地歴同好会の夏期巡検に参加すること、私は楽しみにしてきました。案内のちらしをいただいたので、参加を申し込んだ。今年、上州の秘境・落人と伝承と民俗の里「六合村(くにむら)」とのこと、私はこんな名前の村があるとは知らなかった。そこが、秋山郷と背中合わせで、高山村にも境を接している村と知り、自分の無知がはずかしかった。二年前、信毎の夕刊に「山

のあなた：県境800キロ」という連載があったが、この巡検後、その切り抜きを探して見てみると六合村もちゃんと取り上げられていた。その場所に行き初めて関心が高まるという気がした。六合村は近年、野反湖(のぞりこ)という人工湖ができ、それを拠点にスキーやスポーツ民宿村などの観光開発で売り出しているということもわかった。

一昨年、群馬の婦恋(つまごい)村に巡検で入ったが、面積二千五百畝という日本の広大なキャベツ畑を見た時、自分の無知であることを痛感し、生徒にもこの景色を見せてやりたいものだと思った。今回も同様な思いを抱いた。講師の市川健夫、青木廣安の両先生の案内で道祖神を見たり、昔ながらの木工用品を作っている作業場へ案内してもらった。今はめっきり減ったという製作者の古老の姿を見て何か淋しい感じを受け、めんばやしゃもじを買った。また印象深かったのは、山田松雄さんという八十歳の方の聞き取り調査である。市川先生の質問に答える山田さんは、村の祖先のことや移り変わりなど何でもよく知っており、その記憶力には感心させられた。山田さんの先祖は享保の申(さる)の年に秋山郷から来てこの地に住み着いたのだそうである。「戊(いぬ)申年の高水(たかみず)申年の



(常盤中)

算数数学同好会における

夏期講座から学ぶ

越 正行

を依頼しました。先生はまず、現状を分析され、今の教師は尊敬されていない。教師自身も、便利屋となつてゐる。便利屋は尊敬されない。自分の土俵以外で相撲をとつてゐるようなものである。自分の土俵以外で相撲をとれば負けるに決まつてい

る。負ければ、尊敬されるはずがない。教師は本来やるべきところに立つべきと説く。算数数学教育の目的は時代とともに変わつてきている。以前は、生活上の問題ということで考えていたが、つり銭の計算もレジがやってくれる。純粹に数学にアプローチするための数学として必要な人は、一%にも満たない。計算などに誤りがないために正確な計算をするというところで考えるのではなく、次の学習を消化するためのものとして算数数学を考えていく。数学的問題を解決する課程において数学的創造性を身につけるといふ視点になつて考えていく必要がある。そのため、数学的問題を考へるといふことは、

数学的表現の場においてである。数学的創造性のためには、自己の持つてゐる数学を表現していくこと。そのためには、新しい問題場面で自分のもつてゐる数理を移すことにある。移しは、問題場面の移しから数学内容の移しへと進めていく。その子がどのようにやつたか、なぜそのようになつたか、なせそのようになつたか、というところ、自分の中にある数学とは、こういうものだ、と表現できるような場が必要である。教師は、そこを見取り既有的学習の移しが出てくるような学習をさせる。数学的自己表現の要点としては、

① 学習問題場面上に自分を出させる  
② 数学的な問題解決の場で既有的な内容的な活用を意識させる。

以上のことを踏まえて数学的自己表現を大切にしながら、数学的創造性をいっそう高めていってほしい。(小布施中)

修をしましたが、登山計画や登山は来年峰の原登山へ行く私にとっては、たいへん勉強になりました。その中で危険箇所等を見る場合は引率者として大人の視点でなく、子ども視点で見るといふことの大切さを学びました。また、座談会では生徒指導や学級経営、教科指導について各グループに分かれて話し合いましたが、一学期中自分の抱えていた学級経営上の悩みについて討論したり、他の先生方の実践をお聞きしたことで、今までの自分の考え方を見つめ直すことができました。思いいます。

この研修に参加して一番楽しかったことは、どの先生方も三日目の夜のキャンプファイヤーではないかと思ひますが、各班で一生懸命練習した出し物やフォークダンス等、大変盛り上がり二時間という時があつたという間に過ぎてしまいました。たくさん想ひ出のできた研修でしたが、この研修で学んだことを日々の実践に生かしたいと思ひます。最後になりますが、この研修に参加させていただきありがとうございました。(仁礼小)

輝かし  
い歴史と  
伝統を誇  
る小布施  
小学校・  
都住小学  
校も両校  
の老朽化、児童数の減少、国の統合による適正規模校方針などのために昭和四十五年に形式統合し栗ガ丘小学校となり、昭和四十七年四月より完全統合して今日に至つてゐる。校章は、昭和四十六年に町民に公募しできあがつた。「子どもらや 鳥も交る 栗拾い」と一茶にうたわれた

栗拾い」と一茶にうたわれた



校章・校歌めぐり 19

栗ガ丘小学校

初任研夏期研修に参加して

村田 忠久

栗ガ丘小学校 校歌 (伸びゆく子ら)
Moderata 明るく響々と
作詞 市村宏先生
作曲 市村宏先生
1. かりたのやまにひーがのほりてらくり
2. りんごのはなははらけのほりてらくり
3. のびゆく子にはゆめがあが

「真理を求め 美を探る 未来をひらく 鍵を手に」
作曲は、桜井蒼人先生である。「光りを浴びる 学校に 小布施の子どもが いっぱいだ」
「真理を求め 美を探る 未来をひらく 鍵を手に」
というように、豊かな知性とたくましい力を胸に、明るく強く、共に伸びていく子ども達の姿を歌いこんでいる校歌である。(小林裕)



# 火ばら談義



先日、学校で講師を招いて子どもたちと父母といっしょに話を聞く機会があった。講師の話が始まってしばらくした頃に、座っている側の方から聞こえてくる「ざわざわ」といった調子の話し声が気になり出した。

最初は子どもたちがしゃべっているからだろうと思いついて、静かに聞くように注意を促していたが、少しも治まる気配がない。私語をしてい

## 小宮山公一

### 気になる私語

たのは、子どもたちだけではない。横の席の方に座っている我々大人たちも、あちらこちらで講師の話をよく聞いていた。暑い体育館の中で、汗を流しながら熱心に話している講師がすぐ目の前にいるのに、どうして黙って聞かない

のだろう。近くに座っている人たちはどんな思いで聞いているのだろう。第一、話をしてくれている講師の方に失礼じゃないかなどと思いついて、注意もできずにいる自分に腹立たしさを覚えながら、悶々とした時を過ごしたのである。

そんな社会の中で一体何が真実なのかを見極めるためにも、最低しつかりと聞くことが大

### 「風とゆきさし」雲からエネルギーをとれ

白鳥 明子

四賀村に「四賀アイアイ」という施設ができるそうです。知恵遅れを持った人も、そうでない人も、職員も同じ人間として生活することを目指してします。子どもが「四賀アイアイ」で生活していて、お父さんお母さんのセカンドハウスになります。「四賀アイアイ」には、誰でも行くことができます。

以前ボランティアを考え直す会主催の「風とゆきさし」という映画を見ました。きっとそれは真実であろうはずの人間の愛が、十年たつと変わってしまう。そして、コミュニケーションがぎくしゃくして、善意が善意として受けとれなくなってくる、いや、困難になってくる—そういう様子が映し出されていました。悲しみが悲しみのままで在り続けることはなく、時が味方してくれる、というのを知っていました。喜びだっただけのことだ。とその時、気がつきました。

### 子どものからだ

北村 育代

豊かたて本当にいいのかな。勉強ができるって本当にいいのかな。人の心を詮索しないで、はちみつみたいにしつとりと

「朝ご飯食べてこないよ。夕食はおやじがうるさいから自分でセブンイレブンで買って部屋で食べるのさ。」

先日、男子生徒の会話の中でこのような話が出た。本人はごくあたりまえの毎日の生活であり、家族と一緒に食事しようと考えてもいない。「先生、だから太るのさ。」「俺は食べなければそれでいいよ。」中学生の一番成長するこの時期にこのような食生活を送っている者が何人いるのだろうか。小学校で約一ヵ月間、朝食、だのおかしさが調査結果と

包んでしまう心の方が、美しいんじゃないのかな。人の優しさや、見すこしてしまいうようなほどの小さなこだわり、切なさを感じる時、宮沢賢治は忘れられない人だと思えます。賢治の言葉に、自分の中に埋もれていたものを突かれたような感じを、何度か覚えました。「風とゆきさし」雲からエネルギーをとれ。これは賢治の言葉です。

四賀アイアイは、平成五年四月にオープンです。お茶を飲んだり話をしたりに訪れてくれる、温かい心の会員を今募集中だということです。(高山小)

背筋力の低下、姿勢の崩れ、腰痛、低体温、脳の覚醒水準の低下、防御反射の低下等、子どもたちの身体活動量の激減による筋肉量の減少や、大人社会に対応した夜型リズムなどが原因として考えられるという。

生徒がよく「疲れた」と口にする。「少し動いただけなのに疲れた」と言われないの」と言ってしまうのだが、実際に子供たちのからだは疲れているのだろうか。子供たちをめぐる生活環境の急変、遊びやお手伝いが減り、塾通いやテレビ、ファミコンと発育期に運動量が少ないために体力が落ちてきているのではないのかと思う。

社会の変化に子供たちだけが乗らずにいられるわけがない。これから私たちが何をしたいかねばならないだろう。(小布施中)

### 編集後記

夏休み、研修に参加された会員の皆さんには、その中から得られた貴重な体験や感想をお寄せいただきました。また、同好会副会長の佐藤昭二先生には巻頭言を戴きました。お忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。(正木・井口)